

症例検討会

平成24年5月24日

羽島店

患者

60代女性 風邪、花粉症で何度か来局 定期薬(一)

処方

H.24.4.19

バイアスピリン 100mg 1T
ワーファリン 1mg 1T 分1 朝食後 7日分
ふくらはぎのケガ後、静脈が浮き上がり痛みがあるため来院

H24.4.26

メロキシカム 10mg 1T
タケプロン OD 15mg 1T 分1 夕食後 14日分

ワーファリン 1mg 3T 分1 朝食後 14日分

Drより仕事は1週間休んで自宅で安静にしているように指示あり
紹介状をもらい、1週間経っても痛み引かなかったら他院にかかるように指示

H24.5.10

メロキシカム 5mg 1T
ワーファリン 1mg 3T 分1 夕食後 14日分

痛みが軽くなったためメロキシカム 10→5mg

出血傾向(一) 胃腸障害(一)

紹介状を持って他院にいったが、内服での治療継続

静脈血栓症について調べてみました

表在性血栓静脈炎（表在性静脈炎）とは、表在静脈に炎症と血栓がみられる病気です。表在性血栓静脈炎は脚の表在静脈に最も多くみられますが、鼠径部（そけいぶ：足の付け根）の表在静脈にもみられることがあります。血栓静脈炎の患者はしばしば静脈瘤も起こします。しかしほとんどの静脈瘤の患者は、血栓静脈炎を起こしません。

静脈瘤ではごく小さな傷が原因で炎症が起こることがあります。ほとんど炎症が起こらない深部静脈血栓症とは異なり、表在性血栓静脈炎では急性の炎症反応が起こり、血栓は静脈壁にしっかりと付着してはがれにくくなります。深部静脈と違って表在静脈は筋肉に取り囲まれていないため、血栓が押し出されることはありません。したがって、表在性血栓静脈炎はほとんど塞栓症を起こしません。

局所的な痛みと腫れが急速に現れ、炎症を起こしている静脈の周囲の皮膚が赤く熱っぽくなり、触れるとひどく痛みます。静脈内の血液が固まるため、正常な静脈や静脈瘤のように軟らかくはなく、静脈は皮膚の下に硬いコードがあるように感じられます。このような静脈は全長にわたって硬く触れることもあります。

たいていの場合、表在性血栓静脈炎は自然に治癒します。痛みを軽減するには、アスピリンや非ステロイド性抗炎症薬（NSAIDs）などの鎮痛薬を服用します。炎症は数日で治まりますが、腫れと圧痛が完全に消えるには数週間かかることもあります。早期に症状を軽減するには、局所麻酔を行って血栓を除去し、圧迫包帯を使用します。圧迫包帯は数日間巻いたままにしておきます。

主要な表在静脈と深部静脈が接合する鼠径部で表在性血栓静脈炎が発症した場合は、血栓が深部静脈内に広がることがあります。このような血栓ははがれ落ちて塞栓となる可能性があります。血栓の広がりを防ぐために、表在静脈を縛る緊急手術が勧められることもあります。この手術は普通局所麻酔で行われ、入院の必要はありません。手術後は普通の生活に戻ることができます

静脈瘤とは、脚の表在静脈に起こる異常な拡張のことです。

静脈瘤の正確な原因はわかりませんが、表在静脈の壁のぜい弱さが主な原因だろうと考えられます。このぜい弱さは遺伝するようです。時がたつにしたがって弱い静脈は弾力性を失っていきます。そのような静脈は伸びて長く広くなり、正常なときと同じ空間に収まるためには、伸びた分を巻きこまなくてはなりません。これは皮膚の下にヘビがとぐろを巻いているようにみえます。静脈瘤は妊娠中にしばしばみられますが、出産後間もなく解消します。

静脈の拡張は延長よりも重大な問題で、弁尖を引き離す原因となります。弁尖が引き離された状態では、起立時に重力の作用によって起こる血液の逆流を止めることができなくなります。その結果、血液が逆流して静脈内に急速にたまります。血液の逆流は、壁が薄くなって蛇行している静脈をさらに拡張させます。正常なら表在静脈から深部静脈へ血液を送る連結静脈の一部も拡張することがあります。これらの静脈が拡張すればその弁も引き離され、筋肉が深部静脈を圧迫するたびに血液が逆に表在静脈内へ噴出して、表在静脈はさらに伸びてしまいます。